

米国 製造業部門の拡大ペースはさらに加速(10年 1 月 I S M製造業景気指数)

発表日：2010年 2 月 1 日 (月)

～世界的に製造業部門は拡大ペースを加速～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治

03-5221-5001

I S M (the Institute for Supply Management) の推移

	総合	新規受注	生産	雇用	在庫	入荷遅延	受注残	仕入価格	輸出受注	輸入
09/03	36.4	41.2	35.7	28.3	32.3	44.4	35.5	31.0	39.0	33.0
09/04	40.4	46.5	41.0	35.0	33.7	45.9	40.5	32.0	44.0	42.0
09/05	43.2	51.4	47.0	35.1	32.7	50.0	48.0	43.5	48.0	42.5
09/06	45.3	49.9	53.2	42.1	30.9	50.5	47.5	50.0	49.5	46.0
09/07	49.1	55.5	59.0	45.9	33.3	51.7	50.0	55.0	50.5	50.0
09/08	52.8	63.0	62.9	47.0	35.0	56.0	52.5	65.0	55.5	49.5
09/09	52.4	59.9	57.5	46.5	41.2	56.8	53.5	63.5	55.0	52.0
09/10	55.2	58.3	62.2	51.8	47.3	56.3	53.5	65.0	55.5	51.0
09/11	53.7	61.5	60.2	49.6	41.4	55.7	52.0	55.0	56.0	51.5
09/12	54.9	64.8	59.7	50.2	43.0	56.8	50.0	61.5	54.5	55.0
10/01	58.4	65.9	66.2	53.3	46.5	60.1	56.0	70.0	58.5	56.5

I S M製造業景気指数は 58.4 と市場予想の 55.5 への低下に反し上昇したことで、株高、ドル高、金利上昇

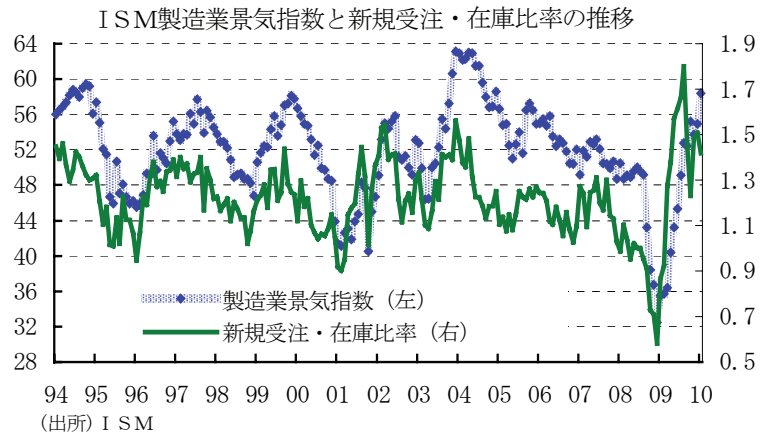
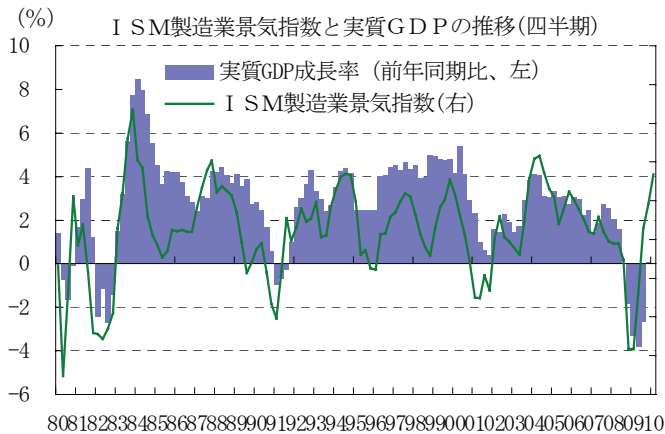
1 月の I S M製造業景気指数は、58.4 と市場予想の 55.5 への低下に反し上昇し、2004 年 8 月の 58.5 以来の高水準となった。生産（前月比 +1.3%ポイント）、在庫（同 +0.7%ポイント）、入荷遅延（同 +0.7%ポイント）、雇用（同 +0.6%ポイント）、新規受注（同 +0.2%ポイント）の全構成項目が改善する形で、総合指数は前月比 3.5%ポイント上昇し、拡大縮小の分岐点である 50 を 6 ヶ月連続で上回った。また、拡大した業種数は、13 業種と前月の 9 業種から増加した。

各国の景気刺激策による需要拡大、在庫調整の進展によって、製造業部門の拡大ペースは一段と加速している。また、I S Mによると 1 月の 58.4 は実質 GDP 換算で +5.5%成長を示すとしており、1 ～ 3 月期の実質 GDP 成長率の高い伸びを示唆している。

予想を大幅に上回った同統計の発表直後の市場反応をみると、株価、10 年債利回りは上昇した。為替市場では、ドルは対円、対ユーロで強含んだ。

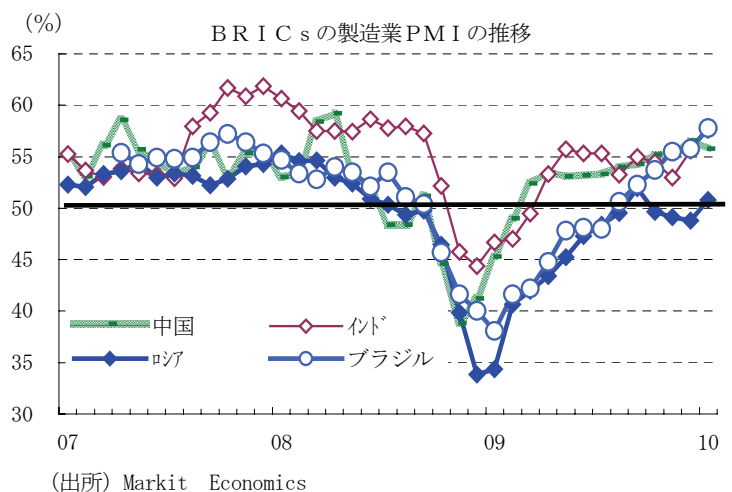
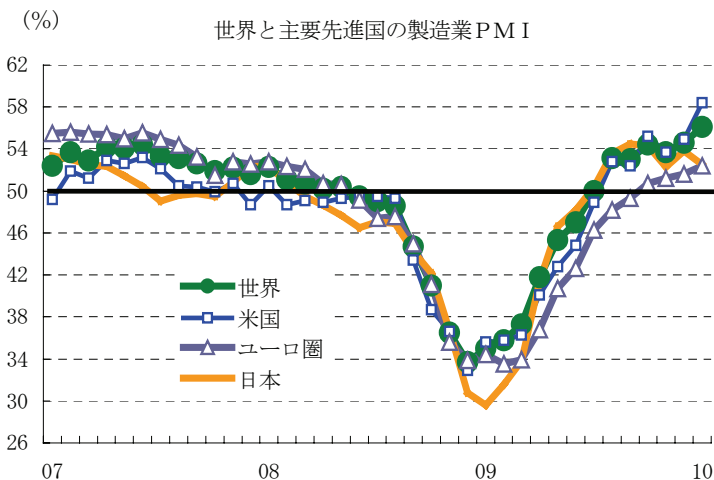
I S M製造業景気指数は 1 ～ 3 月期にピークをつける可能性

今後に関しては、景気対策による需要の拡大、ハイテク需要の回復傾向、在庫復元の動き等による生産活動の活発化を背景に、2010 年前半の I S M製造業景気指数は製造業部門の拡大を示す水準で推移すると見込まれる。ただし、トレンドの変化に先行する新規受注・在庫比率が 2009 年 8 月をピークに低下していることから、I S M製造業景気指数は 2010 年 4 ～ 6 月期以降に水準を切り下げると予想される。



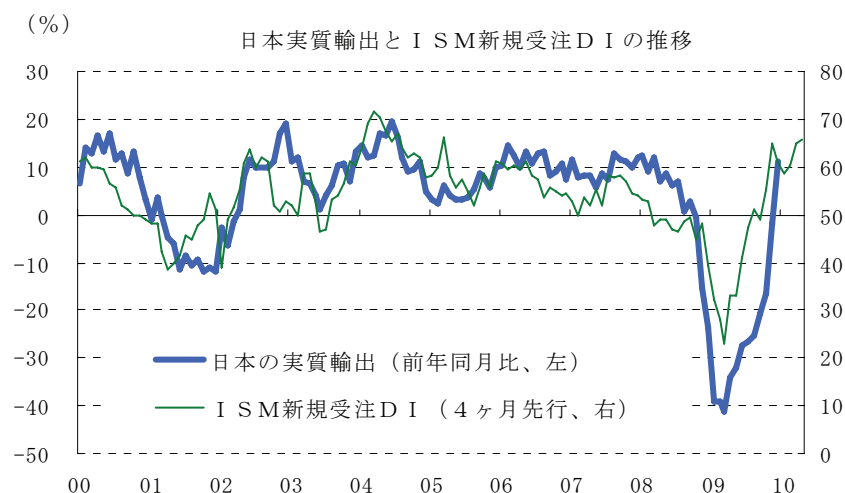
世界製造業景気指数 は56.1に上昇し世 界的に製造業部門の 拡大ペースが加速

輸出受注D I が1月に58.5と前月から上昇し50を大幅に上回っていることは、新興国、日本、ユーロ圏など世界経済の拡大を示唆している。実際、1月の各国の製造業景気指数をみると、ユーロ圏が4ヵ月連続で50を上回り、中国、インド、ブラジルが高い水準を維持した。これら各国の数値を合成した世界製造業景気指数は、56.1（前月54.6）と世界的に製造業部門の拡大ペースが加速していることを示している。



米国向け輸出の拡大ペ ースは今後数ヶ月に亘 り高い伸びを維持

全体の動きに遅れて動く傾向がある輸入D I が前月比1.5%ポイント上昇し56.5と輸入の拡大を示していること、日本の輸出・生産に先行する傾向がある新規受注D I が前月比1.1%ポイント上昇したうえ65.9と高い水準を維持していることから、日本を含む先進各国、BRICsなど新興国の米国向け輸出の拡大ペースは、今後数ヶ月に亘り高い伸びを維持することを示している。

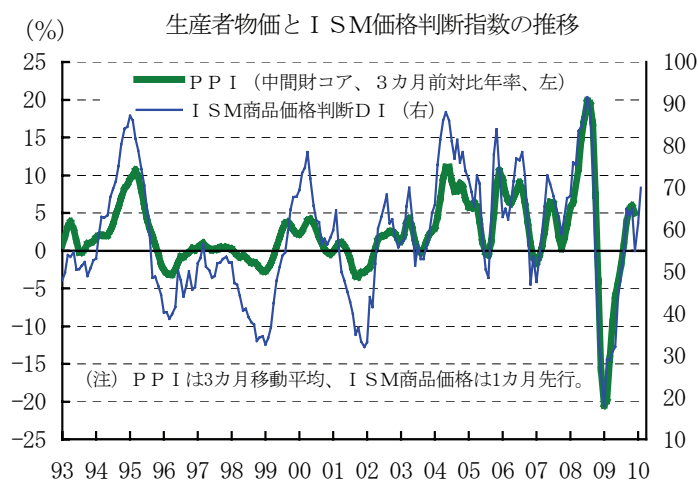
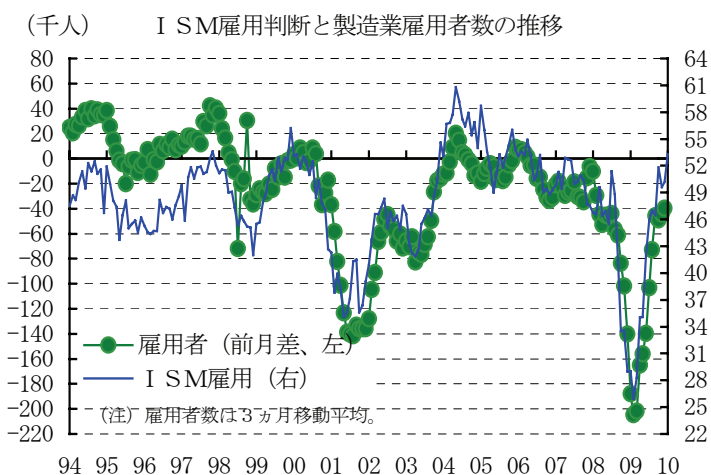


雇用DIが53.3と1月の製造業雇用者数の減少幅縮小を示唆

雇用DIが53.3と前月比3.1%ポイント上昇しており、1月の製造業雇用者数の減少幅は大幅に縮小すると予想される。ただし、価格競争の激化の中でコスト削減圧力は強く、今後も製造業部門の雇用減少が続くと見込まれる。世界経済の回復ペース加速に加えて、現在のドル安が中期的に維持されない限り、製造業雇用が持続的に拡大するのは困難であろう。

価格判断DIは70.0と川上でのインフレ圧力の高まりを示す

仕入価格（価格判断DI）は、70.0と前月から8.5%ポイント上昇した。2008年ほどのインフレ圧力はないものの、川上でのインフレ圧力が徐々に強まっている。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。